

2016年5月30日

## 札チャレラジオ通信 第21回

大山：三角山放送局をお聴きの皆さん、こんにちは。札チャレラジオ通信です。私はパーソナリティーのNPO法人札幌チャレンジドの大山です。よろしくお願いします。札チャレラジオ通信は、自立を目指す障がいのある人が『ITでマザル、ハタラク、拓き合う』社会を創りたいとの思いで活動している、NPO法人札幌チャレンジドが毎週月曜日のこの時間に札幌チャレンジドの活動内容をお伝えする番組です。2016年の一年間、放送します。今週は大山と栄田が担当します。栄田さんよろしくお願いします。

栄田：よろしくお願いします。

大山：では今日のゲストなんですけれども、早速ですね、いきたいと思います。札幌チャレンジドの就労移行支援サービス、私と栄田さんが担当しているグループなんですけれども、この就労移行支援サービスを利用されている篠原光陽さんです。篠原さん、こんにちは、よろしくお願いします。

篠原：はい。皆さん、こんにちは。よろしくお願いします。

大山：篠原さんは平成26年11月から就労移行支援サービスを利用されていて、現在は視覚障害向けのパソコン講習の講師になることを目指して頑張っているらしいです。では篠原さん、まず自己紹介をお願いいたします。

篠原：はい、皆さんこんにちは。私は現在、就労移行支援サービスを利用して、視覚に障害のある方へのパソコンの講習講師を目標として頑張っています。ひとつよろしくお願いします。篠原光陽と申します。

大山：よろしくお願いします。

栄田：よろしくお願いします。

大山：篠原さんは、ご自身も視覚に障害がおりということ、それで視覚に障害のある方のパソコン講師をやりたいということなんですけれども。

篠原：はい。

大山：パソコンがとてもお得意なんだろうなと思うんですけども、いつごろパソコンに出会ったのか、教えていただけますか。

篠原：はい。そうですね、かれこれ24、5年ぐらい前でしょうかね。

大山：はい。

篠原：中学校の時なんですけれども、帯広盲学校にですね、先輩が遊びに来てくださいます、その時にパソコンを初めて触りまして。で、高校を卒業しまして、それからですね。札幌チャレでやっています、IT 講習ですね。

大山：はい。

篠原：それを利用して、パソコンを徐々に習っていった、ということですね。

大山：はい、途中で覚えていった時に札幌チャレンジの担当していた講習も受けてくださったということなんですね。

篠原：はい。

大山：中学校が帯広の盲学校で、高校の時は札幌だったのですか。

篠原：ええ、そうです。札幌の高等盲学校ですね。今現在、特別支援学校ですね。

大山：はい。そちらではパソコンの何か、例えばパソコンサークルとか、そんなのに入っていたということはないんですか。

篠原：先生が情報教育部っていうふうな名前担当されていてですね。

大山：そうなんですね。

篠原：それでキーボードの指使いですとかをゲーム感覚で教えてくださったんですね。それで私も今後ですね、お仕事をする上で絶対パソコンは必需品ですよっていうふうに先生に教えてもらいまして。それで私もパソコンいじるのが好きですので、それで習ったという。

大山：すごく子供のころから興味持って、もうこれは覚えたいなという感じだったんですね。

篠原：はい、そうです。

大山：なるほど、良いですね。その先生はその入力とかをしっかりと教えてくださったという。

篠原：ええ、教えてくださったんですよね。

大山：指の使い方とかがすごく大切になってくると思うんですよね。

篠原：はい。

大山：見ないで操作するということですので、キーの位置とかを、しっかり覚えるということが必要だと思うんですけど。

篠原：はい。

大山：じゃあ、その高校の時の先生にしっかり教えてもらったということなんですね。

篠原：教えてもらいました。それとあと、点字の入力ができるキーボードって少ないそうなんですよ。それでローマ字入力っていうんでしょうか、フルキー入力っていうんでしょうかね。そのキーボードで、入力の仕方を覚えた方が良いでしょうっていうふうに先生から教えていただきました。

大山：じゃあ、先生は将来のことを見越して。

篠原：ええ。

大山：こっちの方が良いよっていうふうに導いてくださったという感じなんですね。

篠原：はい。

大山：確かに点字の入力ができるキーボードって、キーボードにも周辺にいろんなボタンが付いてきたりだとかしてますので、なかなか点字で六個の点を打つ時に、それに反応してく

れないキーボードがあったりして。

栄田：はい。

篠原：ありますよね。

大山：それで、皆さん通常に入力しているローマ字入力覚えていった方がいいよっていうのを先生が教えてくださったということですね。

篠原：はい。

大山：はい、ありがとうございます。そのことが今、しっかりこう生かされて。

栄田：はい、そうですね。

大山：勉強したりということですよ。先生にも本当に感謝ですよ。

篠原：いや本当に感謝です。もうそれがなかったら今、私はここに居なかった。

大山：本当に移行支援にいらっしゃった時には、もう私たちがお伝えすることもなく、篠原さんはパソコンをすらすらとお使いになっていたの。

栄田：そうですね。

大山：私たちの方がいろいろね、教えていただけることの方が多いんですけどね。

篠原：いやいや。

大山：では、今日はですね、このラジオの前にパソコンを持ってきておまして、篠原さんがですね、実際にどんなかたちでパソコンを操作しているのかということをおラジオの前の皆さんにお伝えできればなと思っていますので、ぜひお願いしたいと思います。

篠原：はい、かしこまりました。

大山：ノートパソコンを持ってきておまして、Wordの画面を起動した状態になっていますので、そこにある文章ですね、ちょっと読み上げてもらいたいんですけども。パソコンに

どうすれば読み上げれるのかということなんですが、何かそういうソフトなどを入れているということなんですか。

篠原：今、私が持ってきているパソコンにはですね、PC-Talker という音声の読み上げソフトが入ってましてですね。

大山：はい。

篠原：この音声読み上げソフトは Windows のこの画面ですね、スタート画面ですとか、その画面を一つ一つ読んでくれるソフトなんですね。それでこうボタンを押すと、「スタートメニュー」ですとか、盲人の入力のキーで押すと、「あ」ですとか、「い」ですとか、「う」ですとかっていうふうに、音声で一つ一つ読んでくれるんですね。

大山：じゃあ、操作していることが音を聞きながら全て分かるという状態なんですね。

篠原：はい。

大山：わかりました。ではその今、起動している文章ですね。ちょっと読み上げてもらってもいいですか。

篠原：はい、かしこまりました。今ですね、Word 上では『吾輩は猫である』という文章を読み上げてみたいと思いますので、お聞きください。

大山：はい、お願いします。

PC-Talker の音声：吾輩は猫である、まる。名前はまだ無い、まる。改行。どこで生まれたか、とんと検討がつかぬ、まる。なんでも、薄暗いじめじめした所で、ニャーニャー鳴いていたことだけは記憶している、まる。読み終わり。

篠原：というふうにですね、PC-Talker というこのソフトはですね、全文を読ませることもできるんです。

大山：すごいですね。一気に女性の声でですね、きちんと私たちが聞いていても、すらすら分かる文章を読んでくれたということで。何か音声のそういうロボットの読み方なのかと思ったんですけど、すごく聞きやすいですね。

栄田：そうですね。

篠原：そうですね。本当に聞きやすいついていきますか、本当にロボットじゃなくて、本当に人間の声でね。

大山：そうですね。音は、この声は例えば男性の声とかもあるんでしょうか。

篠原：男性もありますし、あと女性の声もありますし。本当にいろいろな声がですね。

大山：何種類かの方の声が入っているような感じで。

篠原：はい、入っています。

大山：じゃあ、好きな声を選んで、自分で使えるというかたちですね。

篠原：はい、そうです。

大山：読んでる時に「まる」とかですね、言っていたんですけど。

栄田：はい。

大山：こういう句読点とかも読ませたりすることができるということなんですか。

篠原：はい。PC-Talker の設定の中でですね、句点を読まなくするですとか、改行を読まなくするですとかっていう設定も変えることができます。

大山：そうなんですね。確かに改行って、私たち見ているぶんには改行マークが入っているなど分かりますけど、改行って読んでくれないと分からないですよ。通常だと。

篠原：はい。

大山：じゃあ、それを相手に行が変わっているということを知りたい時は、改行を読むという設定にするとか、ということができるとですね。

篠原：はい。

大山：非常に使いやすくなっていますね。

篠原：ええ。とても使いやすいソフトだと思います、私は。

大山：じゃあ、ご自身の使うかたちに設定を変えて、使っていくということですね。

篠原：はい。

大山：ありがとうございます。じゃあですね、ちょっと、もう少しやっていただきたいなと思うんですけど。今一つ画面、『吾輩は猫である』を開いているんですけども、もう一つ画面を開いた状態にしておいてもいいでしょうか。

篠原：はい。

PC-Talker の音声：文書2。

大山：あ、「文書2」って今読み上げましたね。Word って名前付けてないと、文書1とか文書2というふうになっていますよね。

篠原：そうですね。

大山：二枚目の文書が開いているということですよ。

篠原：はい。

大山：では、そこに文字を入力していただいて、今度は読み上げじゃなくて、打っている時にPC-Talker ってどんな音が出るのかなというのを聞いてみたいんですけども、何か文章を打っていただいてよろしいですか。

篠原：はい、かしこまりました。今これからですね、『今日はいい天気ですね。』っていうふうに入力をしてみたいと思いますので、お聞きください。

大山：はい、お願いします。

栄田：お願いします。

PC-Talker の音声：K (ケー)、Y (ワイ)、きょうは、今晚の今 (こん)、今日は。い、い、てん、き、天国の天 (てん)、(あま)、気圧の気 (き)、天気。で、ですね、まる、まる。

篠原：はい、入力終わりました。

大山：入力終わりました。今、打っている時に一つずつ読んでいましたね。

篠原：はい。

大山：今晚の今 (こん) とかですね、今日の今 (いま) っていう字のことを読み上げたりとか、漢字もちゃんと選べるように。

篠原：はい、漢字変換も、一文字一文字読んでくれます。

大山：はい、そうなんですね。読んだ文章を一行、ズラーっと読みたい時とかはどんな感じで操作するんですか。

篠原：少々、お待ちください。

PC-Talker の音声：左端、今晚の今 (こん)、今 (いま)。

篠原：今、左端ということで、左端にカーソルを行ってくださいっていうボタンを押したんですけれども、このボタンを押した後ですね、上矢印を押しますと、一行読んでくれるんですね。ちょっと押してみましようか。

大山：はい、お願いします。

PC-Talker の音声：今日はいい天気ですね、まる。トップ。

大山：読みましたね。左端ということは、文章でいうと行の一番始めの所に、カーソルが行ったということですね。

篠原：先頭ですね。

大山：そこから一行分、文章を読み上げたということですね。



篠原：はい。

大山：すらすらっとね。

栄田：そうですね。

大山：『今日はいい天気ですね。』という、読ませるのも一行ずつ読んだりとか、さっきの『吾輩は猫である』の時みたく、全部読ませたりとか、いろんな読ませ方ができるということなんです。

篠原：はい、できるんです。

大山：はい、ありがとうございます。じゃあ、もうちょっとお願いしても良いですか。

篠原：はい。

大山：はい、じゃあ、文字をちょっと修正していただきたいんですけど、『今日はいい天気ですね。』って入っているので、『今日は晴れですね。』に変えていただいてもいいですか。

篠原：はい、かしこまりました。

大山：いい天気を晴れに変えて。

篠原：いい天気を晴れですね。

大山：どんな感じで操作するのかな。

PC-Talker の音声：日曜日の日（にち）、は、い、い、は、い、削除、い、てん、気圧の気（き）。

大山：今、いい天気という文字を削除したんですよ。

篠原：はい。いい天気という文字を削除してからですね、晴れというふうに入力したいと思います。

大山：その位置に入るとい。

篠原：はい。

PC-Talker の音声：れ、日本語変換、れ、晴天の晴（せい）、晴れ、れ、晴れ。

大山：晴れが入ったような。「晴れ」って言いましたね。

篠原：はい。

PC-Talker の音声：左端、今晚の今（こん）、（いま）。

大山：じゃあ、見せてもらっていいでしょうか。

篠原：はい。

PC-Talker の音声：今日は晴れですね、まる、トップ。

篠原：入りました。

栄田：おー、はい。

大山：『今日は晴れですね。』に変換されましたね。修正されましたね。

栄田：はい。

大山：カーソルは見える方だとマウスを使って操作することが多いので、文章が長いときなどは、マウスですね、マウスポインターをその修正したい文字の位置まで持って行って、クリックするということが多いいんですけども。

篠原：はい。

大山：通常、篠原さん、キー操作だけという時は矢印キーを使って、キーボードにある上下左右の矢印キーを使って、その修正したい文字の所までカーソルを持っていくという操作をしてるんですね。

篠原：はい。上下と左右の矢印キーですね、間違っただけで行きましてですね。それで間

違っている所で削除のキーのボタンを押すんですよ。

大山：そしてその位置に。

篠原：その位置に正しい文字を入力する。

大山：じゃあ、その音を聞きながら行っているということですね。

篠原：はい。

大山：はい、ありがとうございます。すぐく全部話してくれるので、一文字一文字も話してくれるし、全体を読んだりとか、行だけ読んだりとか、いろんなかたちで読み上げて。あとスピードとかも変えたりもできますか。

篠原：できます。先ほどのPC-Talkerの設定の中でですね、音声スピードを変えたりですとか、あと音声のそのボリュームをですね、変えたりすることも。音の大きさですね、変えたりすることも可能ですね。

大山：はい。可能なんですね。聞き慣れていないときをちょっとゆっくりめにしておいて。ちょっと操作に慣れてきたら早めにして聞くとか、そういうのも自由にできるということですね。

篠原：ええ、可能となっております。

大山：はい、ありがとうございます。すごい良いですね。

栄田：すごい、本当に良いですね。

大山：それをサクサク操作して、とても素敵ですね。

栄田：はい、とても素晴らしいですね。

大山：すごく良い先生になれると、確信しました。

篠原：ありがとうございます。

栄田：はい。

大山：では、この辺ですね、篠原さんからのリクエストをお願いしたいと思うんですけども、お願いします。

篠原：はい、かしこまりました。Kiroroの長い間をお願いいたします。

大山：3時からお送りしている札チャレラジオ通信。今日のゲストは札幌チャレンジドの就労移行支援サービスを利用中の篠原光陽さんです。後半は栄田さんから質問をお願いしたいと思います。

栄田：はい。篠原さん、すみません。質問はですね、栄田の方からさせていただきたいと思いますが、まず就職するにあたって、全盲の方が一人で歩いて職場まで行くというのは非常にハードルの高いことではないかと感じるんですけど、篠原さんは新しい場所へ行く時など、どのように道を覚えていらっしゃるかを教えていただいてもよろしいですか。

篠原：はい。まず視覚障害の方はですね、新しい道を覚えるっていうのは本当にハードルの高いことですね。歩行訓練の先生がですね、付いてくださって、それで一番始めはですね、ざっくりと道を歩くんですね。例えば札チャレまでの道でいいますと、福住から札チャレまでの道のりをざっくり歩いて、その周りにどんなお店があって、地下鉄の改札口は、どここの改札口でとかっていうことをですね、一通り教えていただくんですね。

栄田：はい。

篠原：それがまず一回目なんです。で、二回目からは今度、自分で実際に歩いてみるんですよ。そして福住から札チャレまでの道のりをですね、歩いて、点字ブロックの曲がり方がどんなふうになっているのかですとか、札駅の中でもアピアとか大丸とか、いろんな所を通りますよね。その通る所で、「今、ここ大丸だよ」とか「ここアピアだよ」とか「パセオだよ」とかっていうことをですね、ポイント、ポイントで教えてくださるんですよ。で、札チャレの所まで真っすぐ行くんですけど、その行くまでにもいろんな点字ブロックがありますよね。

栄田：はい、そうですね。

篠原：ブロックの切れた所を、「ここ何のお店だよ」というふうに教えてくださるんです

よね、先生が。それで二回目が終わって。三回目はですね、信号の渡り方ですね。

栄田：はい。

篠原：札幌チャレの一番近くの信号、音は出ませんので。

栄田：はい、そうですね。

篠原：車も止まっていて、赤なのか青なのか分からないんですよ。その渡り方を教えてくださいませんか。それを渡る時は、私の場合は、車が私が渡る方向の進行方向に、走っていったら、私が渡るんですね。

栄田：はい。

大山：なるほど。

篠原：それまでは、渡らない方がいいですっていうふうに話していただきまして。

栄田：はい。

篠原：でも、私はもう慣れましたね。皆さんが渡ったら、「あ、渡っちゃえ」と渡ってしまいますけれど。

栄田：そうなんですね。

篠原：本当は、それはいけないですけど。

栄田：はい。

篠原：そういうふうにして、慣れたらですね、先生が遠くから見ていてくれるんですよ。で、危ないと思ったら先生がパッと来てくれて、肩をつかんでくれて、「危ないよ」というふうに言ってくださるんですよ。

栄田：ありがとうございます。福住っていうのは最寄りの自分が使いやすい駅から、札幌チャレンジドへっていうふうに。

篠原：そうですね、一番使いやすかったのが、福住だったんですね。

栄田：じゃあ、そこから札幌チャレンジまでの道のりを歩行訓練の先生と一緒に練習をされていたんですね。

篠原：そうなんです。

栄田：そうなんです。札幌駅ですとか札幌チャレの周りは街中なので、結構人通りが多かったりですとか、すごく混んでいて歩くの大変かと思ったんですけど、その歩行訓練をしている中ですとか、あと篠原さんがいつも歩いている中で、不安に思ったこととか、困った点というのはありましたか。

篠原：どう言ったらいいんでしょうね。前から人が来る、後ろから人がワーッと来ると、結構怖いんですよ。

大山：うんうん。

栄田：そうですね。

篠原：杖をついていると、杖を引っかけられてしまうんじゃないかとか。

大山：うーん。

栄田：はい。

篠原：こういうふうなことを感じてはいけないのかもしれないですけど、やっぱり感じてしまうんですよ。

栄田：はい。

大山：うーん。

篠原：やっぱりその辺で目が不自由な方は、結構怖い思いをされているということもあるのかと思うんですよ。

栄田：そうですね。確かに見えていても猛スピードで自転車が来たりですとかっていったら、

結構危険を私たちも感じるので、視覚の方は更に恐怖感が増してしまうのかなとすごく感じますね。

大山：地下鉄上がった所とか、人が一気に、こう。

篠原：ダーッと。

栄田：そうですね。

大山：そうすると本当に白杖ついていても、周りの方からはその白杖が見えなかったりすると、近くまで来ないと見えない。となると、本当にうっかりぶつかりそうになったりとかっていうこともあるかなとは思いますがね。

栄田：はい、すみません。ありがとうございます。

篠原：ありがとうございます。

大山：ありがとうございます。

栄田：はい、すみません。最後にもう一個なんですけれども、今後どのようなことを頑張っていきたいか、一言ぐらいいただいてもよろしいでしょうか。

篠原：今後ですね、移行支援で視覚の方にですね、Wordとか、Excelを覚えていただきまして、日商PC検定に受かっていただきまして、一人でも多くの方がですね、一般企業への就職をしていただけるような支援をですね、させていただければと思っています、はい。

大山：日商PC検定という日商の検定の文書作成、Wordの方ですね。それとデータ活用、Excelの3級に合格されて、すごく一生懸命ね、勉強してましたね。

栄田：そうですね。

大山：その時大変だったこと、結構ありましたか。

篠原：一番大変だったのが、やっぱりWordの表ですか。

栄田：はい。

大山：うん。

篠原：表の入れ替えですとか、Excelのこの表のイメージ、一番大変でした。

大山：Excelの表ってね、結構ね、イメージをつけるのがやっぱり大変だったと思うんですよね。実際に書いて、レーザーライターという凸凹したものに表を描いて、手で触った表のイメージを覚えるということがありましたよね。

篠原：はい。

大山：やっぱりそういうのを使うと覚えやすいなというのはあったんでしょうか。

篠原：私は覚えやすかったですね。

大山：そういう時の色々な苦労というかね、やったこととかもですね、これから受ける受講生さんにも伝えていただいて、素敵な先生にぜひともなっていただきたいと思いますので、これからもよろしく願いいたします。

篠原：どうぞ、よろしく願いいたします。

栄田：よろしく願いいたします。

大山：今日は札幌チャレンジドで就労移行支援サービスを利用中の篠原光陽さんにお越しいただきました。篠原さん、ありがとうございました。

篠原：どうもありがとうございました。

栄田：ありがとうございました。

大山：では、また来週お会いしましょう。さようなら。

篠原・栄田：さようなら。